

ムシロ瀬：珍しい花崗岩の造形

花崗岩の巨岩は、徳之島の北西端に沿って、この特徴的な海岸の一带を作り上げています。ムシロ瀬の岩は、6 千万年以上前、地下およそ 10 km で形成されました。花崗岩は、地殻変動によって分割され、岩塊は徐々に地表に押し上げられました。地表で冷やされるにつれ、岩塊はさらにひび割れました。何千年にもわたって、風と波はこの岩塊を「ローソク岩」と呼ばれる岩をはじめとする変わった姿に形づくり続けてきました。岩の多いムシロ瀬の風景は、サンゴ礁に囲まれている島のほとんどの海岸とは著しく異なっています。

歩くか登るか

ムシロ瀬の印象的な光景は、奄美群島の大部分を包含する奄美群島国立公園の一部です。約 200 メートルの歩道を通して駐車場から岩場に容易に歩いて行けます。さらに、岩は登って楽しむのに理想的です。様々な高さの岩の上で、巨大な岩、海、そして海岸線の向こうにそびえる山々を、数々の異なる視点から眺めることができます。満潮や強風が海岸に打ち付ける日は、特に注意してください。

名前の意味

この地域の名前は、これらの岩がムシロと呼ばれるワラで編んだ敷物に似ていることに由来します。

植物相と動物相

ムシロ瀬は、釣り好きが釣り糸を垂らすことができる場所がたくさんある人気の釣り場です。ムシロ瀬の海では年間を通してウミガメが泳ぎ、冬の間には時々沖合にザトウクジラが見られます。ムシロ瀬周辺の低木地は、豊かな植物相に恵まれています。何世紀にもわたって、奄美の染物職人たちは、シャリンバイのピンク色の花を、この地方の絹織物「大島紬」を織る絹糸を染め付けるのに利用してきました。タコノキ科の一種であるアダンが豊富に生えています。アダンの葉はバスケットや草履という伝統的なサンダルを作るのに使われます。

行き方

ムシロ瀬は、徳之島空港から車でおよそ 15 分のところにあります。この場所は 15 分ほどで見てまわれますが、もう少しゆっくりする時間をもってピクニックをしたり、あるいはただ岩の上に座って壮観な景色を眺めたりするのに良い場所です。駐車場にはトイレがありますが、付近に売店や食堂はありません。